

研究概要

1. 研究主題について

(1) 研究主題

確かな力を育む主体的な学びのあり方～国語科におけるつながり合う学びの創造～



(2) 主題設定の理由

社会的な要請	学校教育目標	児童の実態
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予測困難で複雑な世界情勢 ・ A I の発達による職業の変化 ・ 想定を超える自然災害や事故 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な立場の人と協働する力 ・ 主体的に学びに向かう意欲 ・ 思考・判断・表現する力 	<p>本校の教育目標</p> <p>大きな夢を抱き、強い心をもって、自ら学ぶ子どもの育成</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(中心課題)・学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉磨き ・ 自主性の高揚 	<p>○活気ある港町の雰囲気の中で伸び伸びと成長。社交的で明るく、運動が好きな児童が多い。</p> <p>△学習態度が主体的とはいえない児童が多い。学力調査の結果は年度ごとの差が大きく、本校としての一貫性が見られない。</p>

【本校の全国学力学習状況調査の結果】

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
国語 A	△	△	▼
国語 B	△	△	▼

(△・・・全国平均以上, ▼・・・全国平均以下)

(3) 研究仮説

問題解決的な学習過程による授業づくりと言語活動を効果的に位置づけた単元づくりを行うことで、子どもが主体的に学びたいと感じる国語科学習指導を創造し、基礎的・基本的な知識や技能はもたらん、意欲や思考力・判断力・表現力を併せた「確かな力」を育成できるであろう。

(4) 研究の柱

- 柱 1・問題解決的な学習過程の展開・・・知識を教える授業から考え方を身につけさせる授業へ変える。
- 柱 2・効果的な言語活動の充実・・・「ゴールの言語活動」を位置付け、主体的に学ぶ意欲を高める。
- 柱 3・学力向上・・・主体的な学びの土台となる基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。

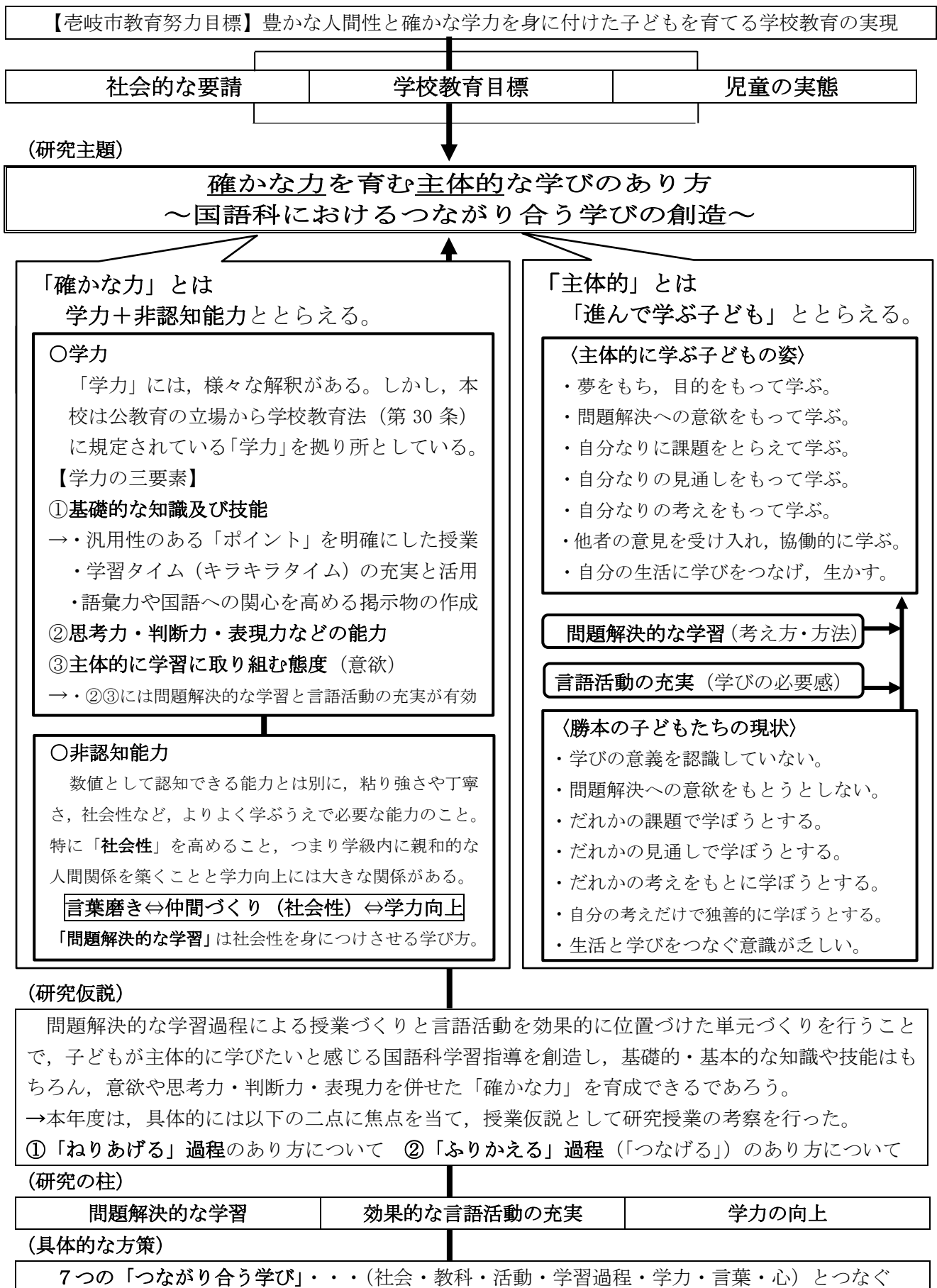
(5) 具体的な方策 (7つの「つながり合う学び」)

本年度の研究のキーワードはサブテーマに示した「つなぐ」。多様なつながりのある学びを目指す。

〈7つの「つながり合う学び」〉

- ① 社会とつなぐ・現在の学びが子どもの将来にどうつながるかを想定し、知識の汎用化を目指す。
- ② 教科をつなぐ・・・現在の学びと他教科とのつながりを明記する。(カリキュラム・マネジメント)
- ③ 活動とつなぐ・・・現在の学びを言語活動とつなげる。思考力・判断力・表現力の育成を保証。
- ④ 学習過程をつなぐ・・・問題解決的な学習過程 (4 過程) をなめらかにつなげて授業を展開する。
- ⑤ 学力とつなぐ・・・現在の学びを確かな学力向上とつなげる。(重点表・ポイント・宿題の工夫等)
- ⑥ 言葉をつなぐ・・・「ねりあげる」過程において、子どもの協働的 (対話的) な問題解決へつなぐ。
- ⑦ 心をつなぐ・・・全員参加の問題解決的な学習過程を実現し、相互支持的な学級風土へつなぐ。

2. 研究構想のまとめ



3. 具体的な方策（7つの「つながり合う学び」）について

(1) 社会とつなぐ

未来を生きる子どもたちを育てることは、未来の社会を創造することだ。現在の学びが子どもの将来にどう役立つかを想定し、知識の汎用化を目指すことは、本研究の大きなねらいである。中教審答申（H28.12.21）にも「よりよい教育を通じて、よりよい社会を創る」という文言が示されており、学校と社会が連携、協働しながら「社会に開かれた教育課程」を実現することの重要性が述べられている。

本研究でも、未来の創り手となる子どもに必要な知識や力は何なのかを考えながら単元づくり、授業づくりを行っている。日々の学びが教室や教科書で完結するのではなく、生活と結びつき、それを豊かにする体験を保証することで主体的に社会・世界と関わる意欲や人間性を育てることができると考える。

（1年生・帰りの会にて）日直によるインタビューのコーナー
「昼休みは何をしましたか？だれと？どこで？楽しかったですか？」



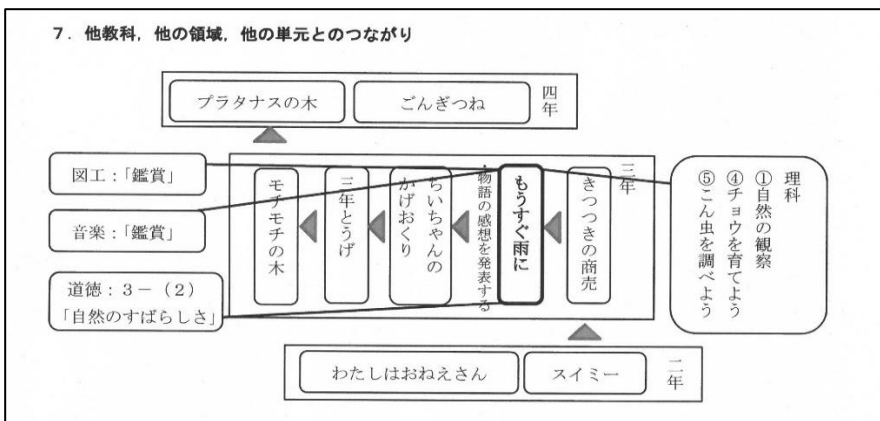
学校は子どもにとって小さな社会。「きいて しらせよう」（話すこと・聞くこと）の学びを生かし、毎日のインタビューを意欲的に行っている。

平成 29 年度全国学力学習状況調査「児童質問紙」

（73）「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」に対する本校児童の回答
◎（当てはまる）・・・68.8%（〈平成28年度〉全国：57.9%，長崎県：59.1%）

(2) 教科をつなぐ

本研究では、より効率的に学習効果を高めるために「カリキュラム・マネジメント」（教科横断的な教育課程の編成）を取り入れ、主体的な学び手の育成や学力向上を図っている。今年度はその第一歩として、研究対象である国語科を中心として、他教科・他領域との効果的なつながりを検討している。具体的には、国語科の指導案に「他教科，他の領域，他の単元とのつながり」という項目を設けている。



「カリキュラム・マネジメント」を示す価値や効果
・授業者が当該単元と他教科・他領域・他単元とのつながりを把握できる。
・必要に応じて他教科の単元等の実施時期を入れ替え、効果を集中させる。
・学びの全体像をつかめる。

〈1年生のカリキュラム・マネジメント〉



（学活「みんな仲良くなろう」）



（国語：「きいてしらせよう」）

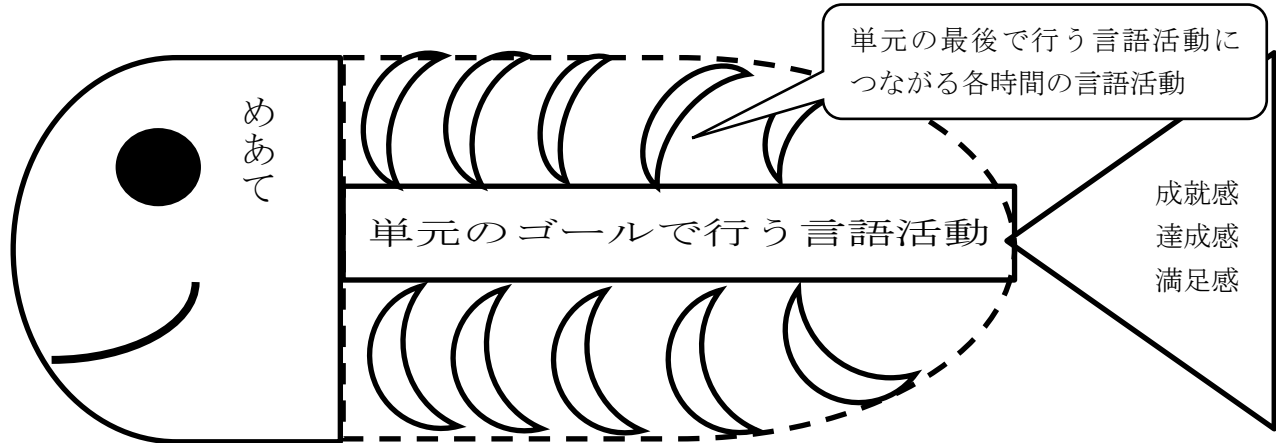


（児童会：「人権集会」）

(3) 活動とつなぐ

本研究では、子どもの主体性を高めるために「言語活動の充実」を柱の一つとしている。魅力的な言語活動を単元のゴールに位置付けることで、子どもたちは**相手意識・目的意識**をもって毎時間の学習に臨んでいる。また、「自分なら～」と考えることで**思考力・判断力・表現力**などを高めることができる。

〈効果的な言語活動を位置付けた単元デザイン〉



第一次	第二次	第三次
必要感をもつ過程	言葉の力を高める過程	達成感を得る過程
・活動のめあてをもつ。	・基本的な知識・技能を中心に言葉の力を高める。	・言語活動を行う。

〈言語活動の実践例〉

★魅力的な言語活動とは、「①誰かの役に立つ」or「②楽しい」活動

	教材	言語活動
1年生	「じどうしゃくらべ」	のりものずかんをつくろう。
2年生	「おもちゃの作り方」	1年生にプレゼントするせつめい書を書こう。
3年生	「もうすぐ雨に」	「もうすぐ雨に」の感想交流会（雨トーク）を開こう。
4年生	「アップとルーズで伝える」	3年生のためにクラブ活動の紹介リーフレットを作ろう。
5年生	「100年後のふるさとを守る」	あなたの悩み解決します。～偉人相談室～
6年生	「森へ」	『『森へ』すごろく』を作って、読書の世界を広げよう。



(つなげる：今日の学びを生かして校長先生にインタビュー)



★「つなげる」過程に関する意識調査

本校では、授業時間（45分間）の終末の5～10分間を「つなげる」過程としている。「つなげる」では、本時の学びを言語活動につなげる活動を行う。第二次においても、言語活動とのつながりを明確にする場を設けることで、子どもたちの意識と意欲が途切れることなく、単元を貫くことができるようにし、思考力・判断力・表現力を養っている。

しつもん	◎	○	△	×
「つなげる」では、学習してわかったことを使って、新しい問題や活動に取り組んでいる	66%	28%	6%	0%
「つなげる」の学習は楽しい	69%	24%	6%	1%

(「校内アンケート」平成29年7月実施)

(4) 学習過程をつなぐ

「学習のし方」(本校の実態に応じた「問題解決的な学習過程」)を以下のように作成し、実践している。

学習過程		学習活動	勝本小なりの工夫や取り組み
つかむ	課題把握	1. 学習問題などを知る	国語科における学習問題を単元のゴールで行う言語活動とし、「めあて」として表記する。ここでは、「めあて」の確認を行う。
		2. 自分なりの課題を考える	本時の課題設定は、事前に立てた「学習計画」によるものとする。ただし、視覚に訴える手立てなどを行い、子どもの意欲を喚起したうえで課題を確認させるようにする。
		3. 本時の課題を考える	
		4. 課題をつかむ	課題の文言を「？」で終わらせる。→「ねりあげる」に関連。
しらべる	自力解決	5. 課題解決の方法や結果の見通しを立てる。	見通しには「結果(=予想)」、「方法」、「考え方」の三種類があることを知らせ、課題に応じて必要な見通しをもたせる。特に、「方法」の見通しについては、これまでの「方法」を蓄積したり、全校で一覧表を作成したりするなどして、効率化を図る。
		6. 見通しを発表し合う。	
		7. 自分で決めた方法で一人調べ。(自力解決)	一人調べの間は、しゃべらずに自分の力で活動することを徹底する。教師は、個別支援を行ったり指名計画を立てたりする。
ねりあげる	協働解決	8. 調べた結果を発表し、相互に深め合う。	「ねりあげる」過程をよりよいものにするための基本的な展開。 「広げる」or「集める」→中心発問→「深める」(深い学び)
		9. 本時の課題を解決し、まとめる。	子どもの言葉で「まとめ」させる。2, 3人の発表により全体の「まとめ」を示すが、それぞれの考えのよさも認める。
ふりかえる	自己評価	10. 解決過程や結果のよさを味わう学習活動をする。	今日の学習のポイントを生かし、ゴールの言語活動や練習問題に「つなげる」。
		11. 自己の課題解決の経過をふり返り、次時に生かす。	「課題」、「見通し」、「まとめ」が自分の力で書けたかを記録する。特に「見通し」が適切であったかをふり返り、感想を述べ合う。

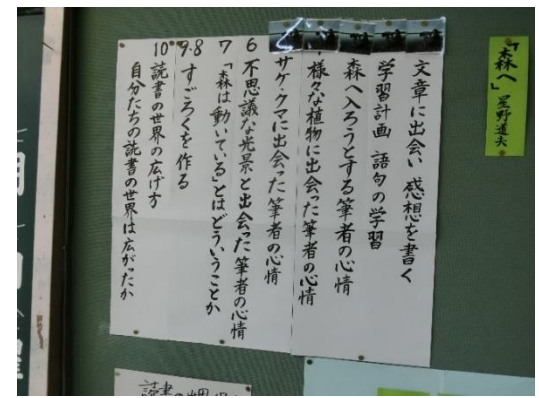
↓

★理想的な1単位時間(45分)の展開

つかむ				しらべる			ねりあげる		ふりかえる	
知る	自分で考える	全員で考える	つかむ	見通す	発表	調べる	検討	まとめ	つなげる	ふり返る
5分				5分			10分	10分	5分	5分

ふりかえる	ねりあげる	しらべる	つかむ	学習過程
⑪ 問題解決の流れをふりかえる。 (練習問題や言語活動に取り組む) つなげる。	⑩ 今日の学びのポイントを他の学習に、 見つけて、みんなの考えをねりあげる。 今日の課題を解決し、まとめる。	⑧ 調べたこと(自分の考え)を発表する。 友だちの意見を聞き、似ている所や違う所を見つけて、みんなの考えをねりあげる。 今日の課題を解決し、まとめる。	⑦ ⑥ ⑤ 見通し(方法や予想)を立てる。 自分が考えた見通しを発表する。 自分が考えた方法で、一人調べをする。 ④ ③ ② ① 今日の問題(めあて)を知る。 自分なりの課題を書く。 書いたことを発表し、全体の課題を作る。 みんなが考えた課題をノートに書く。	学習のし方 がくしゅう 学習のし方 吉岐市立 勝本小学校

授業中の学習の進め方がわかっている
◎・・・65% (校内アンケートより)



(全教室に掲示している「学習のし方」)

(学習計画)

(6) 言葉をつなぐ

本研究の現在の大きな課題は、「ねりあげる」過程における子どもの「対話的な学び」のあり方である。「ねりあげる」過程では、問題解決に向けて、子どもたちが一人調べの結果を持ち寄り、対話的に深い学びへと至る姿が期待される。それは同時に主体的に学ぶ姿であり、本研究の最も大きなねらいである。しかし、数名の子どもの話し合いになったり、教師が教えすぎてしまったりする場面が多い。そこで、「ねりあげる」過程を次のように規定し、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように手立てを工夫し、実践している。



(「ねりあげる」過程の様子)

〈「ねりあげる」過程 (15分)〉

「広げる」or「集める」
・「一人調べ」の結果を出し合う。

中心発問

「深める」

・「中心発問」を受け、全員で話し合う。
・話し合いを受け、「まとめ」を書く。

★「ねりあげる」過程では、教師の的確な状況判断をもとにした臨機応変な対応が求められる。

- ・必要に応じて、ペア学習やグループ学習などを行う。ただし、明確な意図と効果のある活動とする。
- ・必要に応じて、中心発問後に「揺さぶりの発問」、「確かめる発問」などを行い、思考を深めさせる。
- ・必要に応じて、本時の「ポイント」を示し、「まとめ」や言語活動に生かすことができるようにする。

平成 29 年度全国学力学習状況調査「児童質問紙」

(57)「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた」に対する本校児童の回答

◎ (当てはまる)・・・75.0% (〈平成 28 年度〉全国：45.2%，長崎県：43.9%)

(7) 心をつなぐ

主体的な学び手を育てることを目的とした本研究のねらいは、数値として計測できる学力の向上だけではない。将来、多様な立場の人と協力できるように、その人間性を高めることも目指している。数年前は、普段の言動に荒々しさも目立った子どもたちだが、日々の授業の中で、協働して問題解決に臨む経験を重ねることで、一人一人の心に思いやりの心が育っている。「学校に行くのが楽しい」という子どもが増えていることは、その成果といえる。また、お互いの言葉に気をつけながら、よく聞き、よく話し合うことの積み重ねが、子どもたちに安心感を与え、学びへ向かう態度を意欲的なものにしていく。

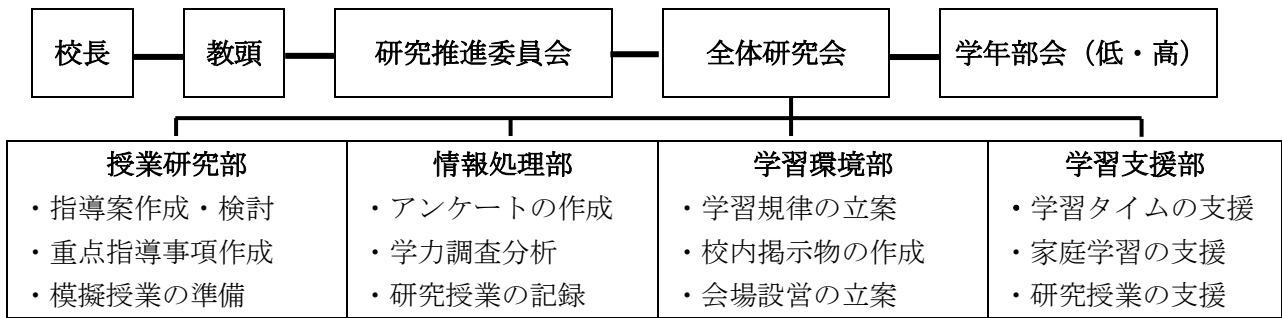


平成 29 年度全国学力学習状況調査「児童質問紙」

(26)「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する本校児童の回答

◎ (当てはまる)・・・75.0% (〈平成 28 年度〉全国：55.2%，長崎県：56.2%)

4. 研究の組織



5. 年間計画

月	日	曜日	内 容
4	3	月	・研究推進委員会（研究構想検討，計画検討，基礎研究について）
4	4	火	・アクティビティ研修会（つながり合う学びの土台作り）
4	5	水	・授業研修会（模擬授業による学習過程の共通理解と検討）
4	12	水	・理論研修会（研究内容についての共通理解を図る）
5	24	水	・提案授業（3年生）指導案検討
5	31	水	・提案授業（3年生）模擬授業
6	9	金	・提案授業（研究主任・3年生），提案及び授業研究
6	21	水	・部会授業（4年生）指導案検討
6	27	火	・部会授業（4年生）及び授業研究
7	12	水	・本発表の準備（組織の再編と役割分担）
7	21	金	・全体授業（D日程発表分2本）指導案検討
8	9	水	・部会授業指導案検討（2本）
8	21	月	・研究発表会の準備
8	31	木	・各部の活動
9	20	水	・部会授業（5年生）及び授業研究（1本）
10	4	水	・さくら学級実践授業参観（国語）
10	11	水	・初任研示範授業（3年生），分科会リハーサル
10	18	水	・全体授業（1・6年生）指導案検討
10	23	月	・1・6年生模擬授業
11	1	水	・紀要原稿とりまとめ
11	8	水	・全体授業指導案検討（2本），会場準備
11	15	水	・全体授業指導案検討（2本），会場準備
11	22	水	・研究発表会（D日程）
11	30	木	・部会授業（2年生，初任研公開授業を兼ねる）
12	13	水	・研究発表会のふり返し，まとめ作業
12	25	月	・研究推進委員会（2学期の反省と3学期の方向性）
2	14	水	・「研究のまとめ」作成，授業考察
2	28	水	・「研究のまとめ」作成，各部にて課題と成果
3	26	水	・まとめと反省，研究推進委員会（来年度の方向性）

※授業者は，事前に全体会もしくは学年部会において指導案検討を行い，1週間前に指導案を配布する。